

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300038		
法人名	(株)VAN		
事業所名	海に見えるグループホームしおさい		
所在地	山口県山口市秋穂西3317-1		
自己評価作成日	令和 2年11月25日	評価結果市町受理日	令和4年10月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉数下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
聞き取り調査実施日	令和2年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くに大きな道や建物はなく南側に秋穂湾を望む少し高い所にあり、天気の良いれば夜明けから夕暮れまで太陽光を浴びての体操、散歩が出来ます。隣接している車エビ養殖池は防波堤の役割をしています。北側に玄関・駐車場があり周囲の花壇には職員により四季を通じ花が絶えません。毎日のレクリエーションは「ラジオ体操(1)(2)、歌唱」を基本として、昼食前・おやつ前・夕食前に行っています。歌唱は218曲のピアノ生伴奏が可能で、演奏者不在でも、FDに入れてあるので職員誰でもOKです。(日)はドライブとしておりあちこちの桜、菜の花、藤、コスモス、紅葉等々を観たり、蒨、栗、渋柿、熟柿等を楽しめます。感染症の心配なければ、例年の「しおさい祭り」開催できたのですが・・・

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は認知症への理解を深めるために「そのことから私たちの学べるもの」、「イライラ」「怒り」についてなどの知識や介護技術、介護者の自己啓発に至るまでの研修を実施されて、職員が口先、手足のみの介護にならないよう、常に職員間で話し合われて日常業務に活かす取組みをされています。利用者の重度化が進む中、職員は利用者一人ひとりに対する介護の理解や姿勢、取組みが積極的になり、評価項目の理解が深まっていることを管理者は実感しておられます。職員は、利用者の心や思いを見い出す努力をされています。ピアノ演奏者の傍らに車椅子使用の利用者を連れていかれたときに、利用者が歌を歌うことに気づかされたことや、利用者が以前からの新聞を購読され、配達してもらっている人との交流を継続していること、利用者が野の花を摘んできて配偶者の写真の前に飾られていることなど、利用者の思いに添った支援をしておられます。毎週日曜日はドライブの日として、利用者の馴染みの場所や行きたい場所を聞かれ、できるだけ人のいない場所を選んで、できるだけ戸外に出かけられて、利用者の楽しみを増やす支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 む の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 む の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「理念を短く」という課題はあるが、「思い」は共有出来ているよう。最近の課題は「その思いに添うには、『早く早く』と仕事をしない。」ということ。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、月1回のユニット会議や全体会議、内部研修の中で理念について話し合い共有している。カンファレンス時には、「利用者にとって日常が穏やかで、和やかな暮らしの場になっているか」を話し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議でのつきあいに限られる。特に、今年は。	事業所は自治会に加入している。管理者が総会に出席しているが、コロナ禍の中、自治会行事や地域行事は実施されていない。地域の情報は回覧板により把握している。事業所行事の「しおさい祭り」も今年は中止している。「しおさいだより」は2カ月に1回、家族宛に送付している。管理者は、事業所が将来、災害時の地域の避難所としての役割が果たせるよう、年1回ある地域防災会議に参加して地域の一員として役割を深めるとともに、月1回、地域のサロンにピアノ演奏者として出向き、地域の高齢者と交流している。利用者は散歩時に出会う地域の人と挨拶を交わし、花や野菜の差し入れがあるなど、地域の人と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員個人では、その地域で支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	一瞬でも見守りが抜けない方々が増えてはいるが、長い年月を経て徐々に改善している。	管理者は、評価の意義について職員に説明し、職員全員と話し合っ、まとめている。管理者は、利用者の重度化が進む中、介護の実践指導や内部研修を通して、職員は評価項目の理解が深まり、介護者としての姿勢や取り組みが積極的になっていると実感している。前回の外部評価結果を受けて、外部研修への参加があるなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区からの情報で入居者と出掛けたり、介護保険の情報を得る。	会議は年6回開催し、利用者の状況や活動報告、研修報告、外部評価の報告等をして、話し合いをしている。今年度はコロナ禍のため、1回(1月)のみ開催し、以後4回は中止し、11月には利用者の状況と感染症対策の現状、職員の状況を文書にて報告している。メンバーからは電話で意見をもらっているが、コロナ禍での劳いの言葉ばかりである。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	川東地域包括支援センター、地域福祉課、社会福祉協議会とは、日常的に行き来があり情報交換をしている。	市担当者とは、運営推進会議時や電話、防災メール、直接出向くなどして情報交換や運営上の疑義について相談し、助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。生活保護受給者や成年後見人制度の利用者もあり、福祉担当課とも協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時の他、電話や直接出向いて情報交換を行い、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「指針」に沿って、理解・行動も徐々にではあるが進んでいる。	職員は、「身体拘束等の適正化のための指針」をもとに、言葉による拘束や虐待(スピーチロック)について、内部研修で学び、運営推進会議に合わせて実施している「身体拘束委員会」からの事例報告を通して、「してはいけない」ためには、「どうしたらよいか」を考えることができており、身体拘束、虐待の内容や被害について正しく理解している。玄関には施錠をしているが、南側の庭の出入りは自由になっており、閉塞感が無い。コロナ禍の中、散歩やドライブなど、多くの外出機会をつくって、閉塞感を無くして、身体拘束や虐待をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一昨年の「虐待通報」以来、研修・実地を通して、徐々に「いけない」から「その為にはどうする」へと、意識が深化している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護、権利擁護制度を利用している入居者があるので、職員の認識にも入っており、ご家族からの相談もあった。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时、入居前には、洩れのないように説明を行ってはいるが、小さな疑問にも応えられるように、施設長の個人携帯電話番号を伝え、夜間でも対応できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や 処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望 を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を 設け、それらを運営に反映させている	施設長へ集約するようにしている。とりあえず は、問題点を分析して、解決解消への道筋 を職員で協議するようにしている。	相談、苦情、要望の受付体制、外部苦情受 付機関を明示し、処理手続きを定めて契約時 に家族に説明をしている。家族からは、面会 時や運営推進会議参加時、ケアプラン送付 時に聞いている他、電話や手紙でも聞いている。 2カ月毎に家族宛に事業所便りを送付し、 ガラス越しでの面会のみ実施している。介護 相談員の来訪が年1回あり、利用者の意見や 要望を聞いている。相談、要望は相談記録に 記録している。家族や友人からの電話や、利 用者から家族へ電話をかけるなど、電話を多 く利用している。利用者から家族への年賀状 の作成に取り組んでいる。個別ケアについて の要望はその都度対応している。家族からは 相談や苦情はない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	小さな施設なので、職員の大なり小なりの意 見・感想は施設長へ直接伝わるようにしてい るし、問い掛けも行っている。	管理者は、月1回の月例会議時やユニット会 議時、毎朝の申し送り時、毎週月曜日の昼食 時の社長ミーティング時、日常業務の中で、 職員の意見や提案を聞いている。管理者の 方からユニットに出向いて職員に言葉をかけ て、話しやすい雰囲気づくりに努めている。職 員からは個別ケアに関する「きめ細かなケア」 についてや、利用者の行動を抑制しない環 境整備、勤務変更等についての意見や提案 があり、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	「処遇改善加算Ⅰ(11.1%)」を取得してもらっ ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	職員間でのトレーニングや伝達や会話が、(-)に作用しないように、手先口先の習熟だけ に終わらないように注意しておくことが、肝要 である。	外部研修は、情報を提供し、職員の希望や 段階に応じて勤務の一環として受講の機会を 提供している。福祉職員キャリアパス対応生 涯研修に1名参加している。受講後は研修報 告書を提出して内部研修で伝達し、資料はコ ピーして配布し、職員全員が共有している。 内部研修は、年間計画を立て、2カ月に1回、 管理者が講師となって、虐待、身体拘束の廃 止についてや認知症について、イライラや怒 りについて、新型コロナウイルス感染症の感 染防止等を実施している。管理者は、現場の 中で研修の学びがどのように活かされている かを確認し、実践を通して指導をするように心 がけている。新任研修は管理者の指導の下、 働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	同業者との交流はない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネからの入居前情報、相談時ご 家族の話題の内容、ご本人の様子や発言か ら読める意向などから希望・要望を探って、 対応している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	担当ケアマネからの入居前情報、相談時ご 家族の話題の内容、ご本人の様子や発言か ら、ご家族の要望意向を読み取って対応し ている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	その場しのぎにならないように、先々の予想 も含めてお話をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	穏やかな表情を保てるようにお世話をしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	より近い関係を築ける担当職員を設定している。新型コロナウイルスによって面会が難しくなっているが、ガラス越しでは許可しているので、喜んで下さっている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話が掛かって来て、長い時間お話される事がある。	コロナ禍の中で家族のみ、ガラス越しの面会を実施している。新聞購読を継続し、以前から新聞を配達してもらっている人との交流や友人との外出、隣人や家族からの電話や年賀状、暑中見舞い状での交流を支援している。毎週馴染みの場所(自宅付近、馴染みの神社、馴染みの公園等)にドライブに出かけ、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール食卓でのゲーム、レクリエーション、歌唱や、ドライブ、散策など行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に、医療機関から電話が入り対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員は、特に関係を築くようにしている。	入居時には本人や家族から暮らし方の希望や趣味、好きな食べ物、嫌いなことなどを聞いて「アセスメント表」に記録して活用している他、日々の関わりの中での、利用者の言葉や表情、行動等を介護記録に記録し、ユニット会議で話し合い、思いの把握に努めている。誕生日には本人のやりたいことができるように、七夕の短冊に願いや希望をかいてもらったり、1対1になれる入浴時に話してもらうなど、一人ひとりの思いや暮らしの方の把握に努めている。職員のピアノ演奏に関心がある様子の車椅子使用の利用者を、ピアノの傍に近づけると、伴奏に合わせて歌い始める利用者を見て、職員はその思いに気づかされている。把握が困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「生い立ちという環境で形成された暮らし方で、発症してしまった認知症」		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	特に、担当職員が力になる。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が、前回のケアプランをベースに新たに加わった課題を含めての原案を、ケアマネと共に設定してゆく。他の職員や施設長の意見も取り入れる。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に月1回、カンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医、訪問看護師の意見を参考にして職員全員で話し合い、介護計画を作成している。月1回、モニタリングを実施し、6か月毎に見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のユニット会議で行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診同行介助、店舗へ出向いての買い物、実家近辺へのドライブ、季節の名勝地へのドライブなど。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔から取っておられる新聞の継続購読。その新聞を当時から配って下さっている方との交流。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くはご家族の了解を得ての訪問診療だが、ご家族によるかかりつけ医受診、職員によるかかりつけ医受診もおこなっている。	本人や家族の希望するかかりつけ医としている。協力医療機関がかかりつけ医の利用者には、月2回の訪問診療がある他、精神科や歯科受診は事業所が支援している。その他のかかりつけ医の医療機関や他科受診は受診時に情報を提供して、家族の協力を得て受診支援をしている。受診結果は業務連絡帳に記録して職員間で共有している。家族には必要に応じて電話をし、面会時に報告をしている。2週間毎に訪問看護師が来訪して、利用者の健康観察を実施している。緊急時や夜間時には看護師や協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制で、隔週の訪問があり、24時間相談で助かっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の地域連携室へは、定期的に訪問している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学时、入居相談時には、「医療機関ではない」ことから初めて、説明を行っている。実際には、ご家族の意向を踏まえて、主治医・訪問看護・ケアマネでの話し合いで始まる。	契約時に「重度化対応、終末期ケア対応指針」をもとに重度化した場合に事業所でできる対応について、本人と家族に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合は早い段階から家族の意向を聞き、主治医や訪問看護師等、関係者の意見を参考にして話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決めて共有して、チームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ちょっとした隙間から起こる事故は、予測する力を養うように。医療的であれば訪問看護にお24時間で相談しています。	事例が生じた場合は事故報告書、ヒヤリハット報告書に発生状況や対応、改善策を記録して回覧して周知している。月1回のユニット会議や全体会議時に再度検討して、一人ひとりの再発防止に取り組んでいる。事故発生に備えて、訪問看護師への報告、連絡のための「フローチャート」を作成して緊急時に備えているが、全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の実践力を身に付けるための定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域防災への参加と、消防計画での災害時の対応を、会議ごとに確認。	事業所の防火管理者(管理者)のもと、年2回昼夜の火災を想定した通報訓練と避難訓練、避難経路の確認、消火訓練を、利用者も参加して実施している。管理者は年1回、地域防災会議に出席し、火災時の避難方法や避難経路の確認、連絡網の確認、非常食の試食をする他、災害時(水害、地震時)には、地域の避難所としての役割が果たせるように避難場所の検討等、災害時の整備について話し合うなど、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	現在、職員の言葉や態度に敏感な入居者がおられ、よく「失礼でしょう」と言われ、時には的確なので、勉強になっている。	職員は、内部研修(個人情報や倫理規定、寛容と優しさ)と、管理者の指導(利用者の状況をとらえて、時間とゆとりを持つ姿勢を忘れないこと)を通して学び、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば、内部研修の中で事例を基に管理者が指導している。個人記録の保管や取り扱いに留意し、守秘義務は徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生祝いの品物や行事、おやつ、出掛ける時の目的地等は、大きな事だが、小さな事柄でも、ご本人を追い込むことのないように働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ともすると、職員側の早いペースが「出来る職員」との認識が残っている。そうならないように注意・指導している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の着替えは、ご本人の希望に添う、または明るめの服装で。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「あなたが作ったの？」という言葉が出せるように、朝食のみ「介護職員による材料からの調理」としている。盛り付け、お盆拭き、食器片付け、洗い、掃除など一緒に。	食事は、毎食のご飯と汁物、週1回の昼食は事業所で手づくりしている。昼食と夕食の副食は給食サービスを利用している。利用者は野菜の下ごしらえや盛り付け、お茶のパック詰め、テーブル拭き、お盆拭き、食器洗い、食器片づけなど、できることを職員と一緒にしている。食事中はテレビを消して録音したピアノ演奏を静かに流している。利用者と職員は、同じテーブルについて同じものを食べている。おやつづくり(ホットケーキ、ヨーグルト、デコレーションケーキ)や誕生日の夕食(うどんや寿司、豚カツ定食)、季節の行事食(おせち料理、節句の寿司、クリスマスケーキ、七草粥など)、季節ごとの栗拾いや笹ほり、露取りに出かけるなど、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調を見て、無理強いはいないようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洩れずに行っており、定期的に訪問歯科で口腔ケアをして頂いている方もおられる。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表により、排泄周期を予測して声掛け、誘導を行っている。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。紙オムツやパットの利用は、職員間で話し合い、根拠をはっきりさせ、家族にも説明をして支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、ヨーグルト、お茶、牛乳、体操、マッサージでの排便を。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は、週 3回平日の隔日だが、拒まれる時もあり、無理強いはいないようにしている。	入浴時間は13時から16時の間で、2日に1回の入浴としているが、希望すれば毎日入浴できる。順番や湯加減、好みのシャンプーや入浴剤の利用、季節の柚子湯など、本人の希望に合わせてゆったりと入浴できるように支援している。職員は、入浴時には利用者の思いを聞くよい機会と捉えている。入浴したくない人には無理強いしないで、時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、清拭、シャワー浴、足浴など、個々の状態に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一名は、お部屋での就寝はすぐに廊下へ出て来られるので、ホールへ簡易ベッドを置いての就寝としている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表で洩れのないようにしている。主治医から託されている薬については、様子によって増減を職員間で相談して、ご本人を理解する助けとなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野の花摘みが好きな方は、日中晴れていれば、外へ出て野草摘みをされ、春～夏は4～5名の入居者で週 3～4回ドライブを行った。	テレビやDVDの視聴、ラジオを聞く、本や雑誌、絵本、新聞を読む、写真集を見る、音楽を聞く、発声練習、ピアノの生演奏での合唱、折り紙、ぬり絵、切り絵、貼り絵、日記を書く、歌を歌う、カラオケ、かるた、トランプ、坊主捲り、おはじき、回族ゲーム、お手玉の山崩し、しりとり、なぞなぞ、パズル、風船バレー、ボール遊び、ボーリング、ラジオ体操、テレビ体操、口腔体操、脳トレ（漢字、四字熟語、間違い探し、ことわざ、早口言葉）、プランターの花の水やり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、リネン交換、布団干し、居室の掃除、玄関やホールの掃除、モップ掛け、ブラインドの開閉、摘んできた花を居室に生ける、花瓶の水換え、繕いもの、栗や落の皮剥き、盆拭き、テーブル拭き、食器洗い、お茶のバック詰め、おやつづくり、栗拾い、散歩、ドライブ、携帯電話の利用、皆が祝う誕生日会など、利用者一人ひとりの楽しみ事や活躍できる場面づくりをして、利用者が気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴れの日には南側の庭へ、時にはほぼ全員出ます。北側の花壇の花観賞も希望があります。お出かけは、毎週(日)のドライブに加えて、御大師様、お花見(桜、菜の花、あじさい、ひまわり、コスモス、紅葉など)、収穫(落、金柑、栗、渋柿など)、秋吉台、仁保などへも足を伸ばします。	園庭での日光浴や外気浴、花壇の鑑賞、周辺の散歩、季節の花見(桜、菜の花、紫陽花、ひまわり、コスモス、紅葉など)、車椅子の利用者も一緒にドライブ(自宅付近、秋吉台、仁保方面、防府方面宇部空港、海岸、セミナーパーク、維新公園、阿知須の桜道路等)、季節の野菜や果物の収穫(栗拾い、金柑、落採りなど)など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、預かり金ですが、ご希望の方には「紛失しても仕方ありません」とご家族同意の上で、財布に少額入れて持っていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使っておられる入居者さんもおられます。友人やご家族への電話はされます。年賀状・暑中見舞いは、全員に何かを書いてもらうようにしています。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	上からの圧迫感のないホール。海側南側からは朝～夕の陽射しが入ります。大きな観葉植物あります。花壇には介護職員の好意で花が絶えません。日に3度の歌唱は、時には生演奏で、その場の雰囲気を作る為に、スローもハードも自在です。ソファにも食卓にも座る所が色々あります。	玄関からリビングへと続く共用空間は、天井が高く、海側の吹き出し窓からの陽ざしで明るく、観葉植物や大きなクリスマスツリーで心和める空間となっている。壁面には利用者の写真が飾っており、ホワイトボードには献立が書いてある。対面式の台所からは食器の音や料理の匂いがして、生活感を感じることができる。リビングには畳の間がある他、ホールにはピアノがあり、その前には大きなソファを配置して、利用者は思い思いの場所でゆったりとくつろいでいる。温度や湿度、換気、清潔に注意し、コロナ禍の中、9時、12時、16時には定期的に消毒をして、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際にも、テレビ前にもソファがあります。食卓でぼんやりされる方も、お部屋でお昼寝される方もおられます。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火気以外は持ち込み自由です。誕生日には、色紙をお渡しするようにして、お部屋に飾るようにしています。カレンダーを希望される方もおられます。	ベッドや寝具、箆筒、衣装ケース、三段ボックス、机、椅子、テレビ、時計、化粧品、雑誌など、使い慣れた物や好みのものを持ち込み、本人や家族の写真、カレンダー、自作の猫の絵や手づくり作品、誕生日の祝いの飾り、配偶者の写真の前には散歩時に摘んだ野の花を生けて、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はクッション・フロアで、ほぼ全周に手摺り設置していて、建設時より追加で設置したのもあります。		

2. 目標達成計画

事業所名 海に見えるグループホームしおさい

作成日: 令和 4 年 10 月 5 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	医療連携体制が組んであるので、24時間訪問看護へ相談できる。が、応急処置や初期対応の訓練を前回受けて、多くの職員は既にかんりの年月を経ている。	自主的に、定期的に訓練を受けるように。	救急の講習を、受けるように指導。ここでも、講習を行う。	1年間
2	全般	食事などの時間を決めているが、遅れないように・・・と、次第に早くなっており、入居者を急がす素地を作っているのではないか。	ゆっくりゆったりと時を過ごせるように。職員が入居者を急がすことのないように。	遅くなっても問題はなく、退社時間になれば、途中であっても、退社して構わなく、次の勤務が継続してゆくようにする。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。